

## 民間外交で局面打開を!

J.R.A 重信房子

日本の皆さんへ

いまわたしは中東のあるところにいるのですが、世界においても日本においても、湾岸危機と呼ばれるイラクの問題が大きな話題になっています。わたしはそうした状況のなかで日本の外交政策のあり方があまりにもひどいので、それを乗り越えて民間外交というか、人びとの力で世界の一員としていまのあり方を変えたい、そのための一言メッセージを送りたいと思います。

### ●人質問題の責任は日本政府に

こちらにいると日本からの国際放送が入るのですが、その国際放送

 <b>日本 新聞 トピックス</b> <b>号外</b>
発行 ウニタ書舗 東京都千代田区神田 神保町1-52 TEL.(03)291-5533 編集 J.R.A.

結果なのです。

一番問題なのが、日本政府が日本

国民総体の責任をもつて国際社会の

なかで生きていくという立場で外交

政策を貫いているのではなく、逆に対

米政策が外交政策のすべてになつて

いることです。それは現在の海部政

権のあり方を見ればわかると思いま

すが、日本人の人がとが国際社会のな

かで他の人たちと対等にできるよう

に日本の外交政策は貫かれなくては

いけないので、現在の政策はア

メリカのいいなりで、アメリカのい

うことにたいしてどう法律を調整す

るかという、まったく本末転倒な政

策の結果です。

たとえば多国籍軍という国連でも認知しきれていないことにたいして

日本人の皆さんもそのことに腹が立つ

ているのではないかということを訴

えたいと思います。

日本政府がなぜわゆる人質問題

という状態に至っているかというと、

日本政府の政策に全部の原因がある

のです。たとえばフィリピンなどの

諸外国の人びとはみんな解放されて

いるのに、なぜアメリカとか日本の

人びとが帰れないかというと、これ

は日本政府が一方的な政策をとった

結果なのです。

一番問題なのが、日本政府が日本

国民総体の責任をもつて国際社会の

なかで生きていくという立場で外交

政策を貫いているのではなく、逆に対

米政策が外交政策のすべてになつて

いることです。それは現在の海部政

動を起こすかはアメリカが勝手に決

定できる。それにたいして日本が全

面的に肩代わりするのはおかしいで

はないか。たとえば周辺国への分担

は西欧でも行われているが、日本は

多国籍軍にストレートにお金を出し

ている、そういう姿勢自身が現在の

イラクにたいして宣戦を布告したと

いう事態になつたわけで、宣戦を布

告した以上、戦争当事国の国民とし

て日本のイラクにいる皆さんがそぞう

いう事態にあつていています。

それをまず認識してほしい。

### ●まず外国軍の撤退を

わたしたちの立場としては、この問題は、外国の軍隊はまず撤退しなくてはいけない、とくにアメリカの

行動が緊張を極度に高めている。一

〇月の中旬には兵力が二〇万から二

五万という形で、全般的に戦争対峙

が行われようとしている。わたした

ちはまずアメリカを中心とする外國

の軍隊が撤退をすべきであると思いま

ます。同時に軍事的なイラクのクウェー

ト併合には反対です。アラブの国が

では多国籍軍とは何かというと、

アラブの人びとの力で問題を解決す

ることを推進すべきだと思っていま

す。

にもかかわらず、日本政府は自衛

隊の派兵を伴う、新しい国連平和協力法という形でさらに踏み込もうとしている。むしろ日本は日本国憲法、この平和の精神、武力派遣はしないという立場を貫いて、逆に平和外交として日本で政策を進めていかなければ、それは新しい社会に貢献していくほど、新しい政治の流れをつくりだしていく。そういう意味でイニシアティブをとっていく最もよい法律を持つてはいるし、国連憲章は、日本国憲法の一年前にできているのですが、それも同じ精神に立っている。その精神をねじ曲げられてきていることが問題なのであって、むしろ国連憲章に則って、日本国憲法に則って武力的解決ではない新しい国連の質をつくっていくという、国民的な土台を日本国憲法は持っているのですから、まことにその資金は払うべきではない、それによっていまイラクにいる日本人の皆さんを救うことができる。同時に自衛隊を派兵すべきではない。これは世界の流れに逆行している。東欧が崩れていくなかで、いわゆるヤルタ体制が崩壊して、今後新しい世界管理体制ができていくのですが、そういう意味では世界に戦争政策を貫徹するアメリカの野望の片棒を担

ぐことにしかならない。非武装だからいいじゃないかという議論もあるが、それでは絶対に済まされない、日本が戦争に巻き込まれる状態について、日本で政策を進めていかなければ、それは新しい社会に貢献していく

ぐことにしかならない。非武装だからいいじゃないかという議論もあるが、それでは絶対に済まされない、日本が戦争に巻き込まれる状態について、日本で政策を進めていかなければ、それは新しい社会に貢献していく

ぐことにしかならない。非武装だからいいじゃないかという議論もあるが、それでは絶対に済まされない、日本が戦争に巻き込まれる状態について、日本で政策を進めていかなければ、それは新しい社会に貢献していく

ぐことにしかならない。非武装だからいいじゃないかという議論もあるが、それでは絶対に済まされない、日本が戦争に巻き込まれる状態について、日本で政策を進めていかなければ、それは新しい社会に貢献していく

ぐことにしかならない。非武装だからいいじゃないかという議論もあるが、それでは絶対に済まされない、日本が戦争に巻き込まれる状態について、日本で政策を進めていかなければ、それは新しい社会に貢献していく

### ●ほんとうの貢献は平和外交

解決ということよりも新しい国際社会のなかで日本国民総体が、ほんとうに貢献するというのは、むしろ平和外交、全方位外交という形で、憲法を土台にして、現在の湾岸危機にもコミットしていくことです。我々は平和憲法なのだと世界に認知させることにより、紛争解決の仕方を変えていくというイニシアティブをとつていく役割ができるのではないか。

パレスチナの人びとは、アラブのことをわかつていないので、日本政府にたいして非常に憤慨しています。日本で見たらわからないかも知れないけれど、驚くほどアラブ全地域でイラク支持の行動をとっている。これはイラク政府そのもの

かつてアデンのクーデターの時とかレバノン内戦時には、日本のふつうの人びとと助けあって解決したこともあります。

日本にいる国民の皆さんに訴えたいと思うのは、政府はあてにしてはいけない、政府はぜんぜんあてにできないような行動をとっているということです。

わたしらは当たり前の人たちと当たり前に結び合って、だからアラブの人たちと仲良くやれている、そういう現在の姿勢を貫きながら、日本の人びとに貢献できるような一翼を担つていて思っています。

わたしらは当たり前の人たちと当たり前に結び合って、だからアラブの人たちと仲良くやれている、そういう現在の姿勢を貫きながら、日本の人びとに貢献できるよう

うにがんばりましょう。

（以上は、テープによるメッセージを東京編集にて整理したもので文責は東京編集にあります。）

の要求が野蛮かどうか、それをもう一度見てみる必要があるのではないと思います。

イラクにいる日本人の皆さんに、わたしたち日本赤軍としては、わたしたちの最善を尽くして、解放されるように努力していただきたいことを伝えておきたいと思います。もちろん日本政府の多国籍軍、アメリカと一緒にコミットしていくことです。我々は平和憲法なのだと世界に認知させることにより、紛争解決の仕方を変えていく役割ができるのではないか。

わたしらは当たり前の人たちと

一緒に金を出してはいけない、憲法を守らないといけないという立場を貫いているそうで、そういう意味では最も理性を持った立場を持っていると

思います。

民間外交としてこの問題を解決していくために、皆で力を合わせていきたいと思います。どういうことか

というと、たとえば日本からいろんな物資を持って中東地域にきて、いま難民になっているアジアの人たちが、帰れるようにすることや、民間努力によっていまイラクにいる人たちとともに、事態をまったく把握とも一緒に帰れるような状況をつくりだしていきたい。わたしたちもパレスチナの友人たちやアラブの友人だけ努力して、イラクの日本人の皆さんのが、安全に帰国されるようになります。

かつてアデンのクーデターの時とかレバノン内戦時には、日本のふつうの人びとと助けあって解決したこともあります。

わたしらは当たり前の人たちと